

**第一回、第二回矢部川学識者懇談会
質疑内容について**

第一回矢部川学識者懇談会指摘事項（流域内平均雨量）

- 年平均降水量2500mmはどの地点の降水量か。
- 上流域に雨量観測所がないが年降雨分布の作成は？

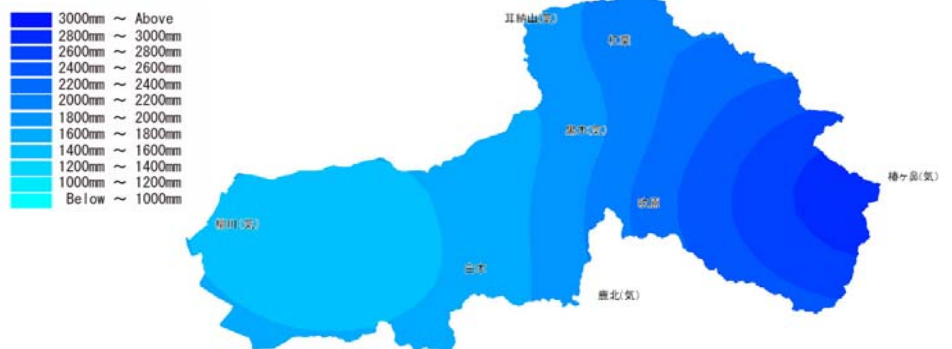


- ・流域内平均雨量2,500mmは、平成18年河川便覧より抜粋し記載しました
- ・上流及び流域外の観測所を追加して再整理しました。

第一回矢部川学識者懇談会



第三回矢部川学識者懇談会



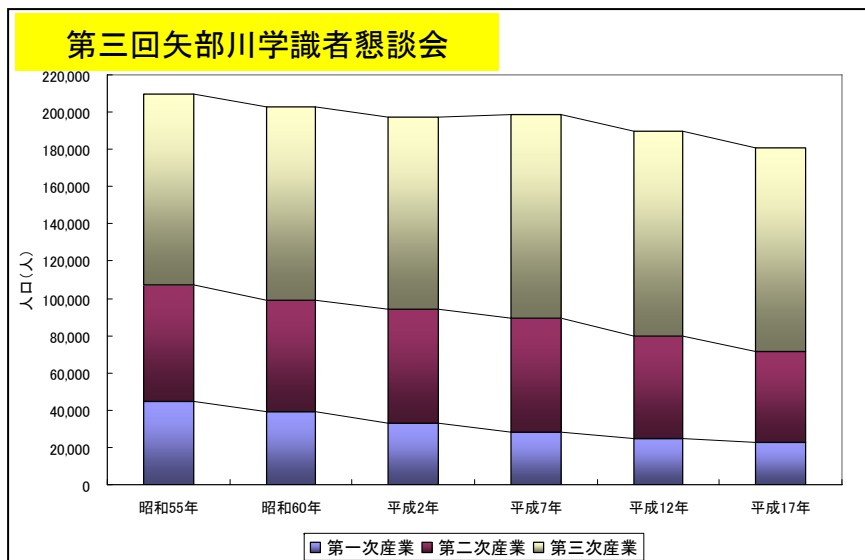
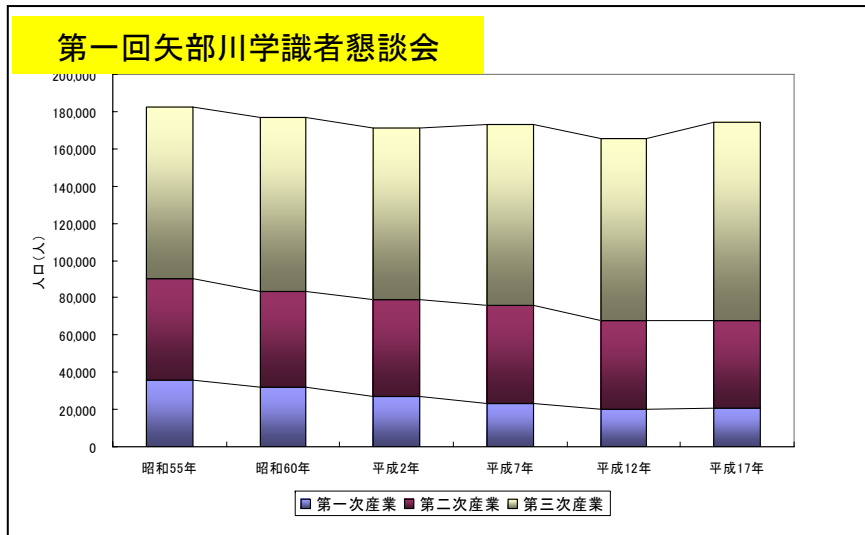
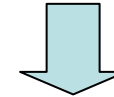
今回、流域外の雨量観測所を用い、新たに作成

観測所名	5カ年平均年降水量(mm) 2005～2009年
耳納山(気)	1882.7
※大牟田(気)	1793.1
柳川(気)	1538.5
※樺ヶ鼻(気)	3019.3
※日田(気)	1631.2
※鹿北(気)	2082.7
黒木(気)	1908.6
杠葉	2114.8
吹原	2294.8
白木	1649.0

※は流域外

第一回矢部川学識者懇談会指摘事項（産業別人口）

●矢部川流域内関係資料村産業別人口構成で平成12年度から平成17年度に増加している理由は



【精査確認内容】

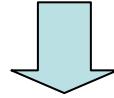
- ・第三次産業に「分類不能の産業」を加算
 - ・市町村合併に伴い、平成17年の「柳川市」のデータに「旧大和町」及び「旧三橋町」が含まれていましたが、平成12年以前のデータには「旧大和町」「旧三橋町」が含まれていませんでした。
 - ・上陽町が含まれていませんでした。
 - ・以上を精査し再度作成しました。
- 結果的に、就業者数は全体的に減少しています。

対象市町村

大牟田市、柳川市（旧大和町、三橋町含み）、八女市（旧上陽町含み）、筑後市、みやま市（旧瀬高町、山川町、高田町）、大木町、黒木町、立花町、矢部村、星野村、南関町

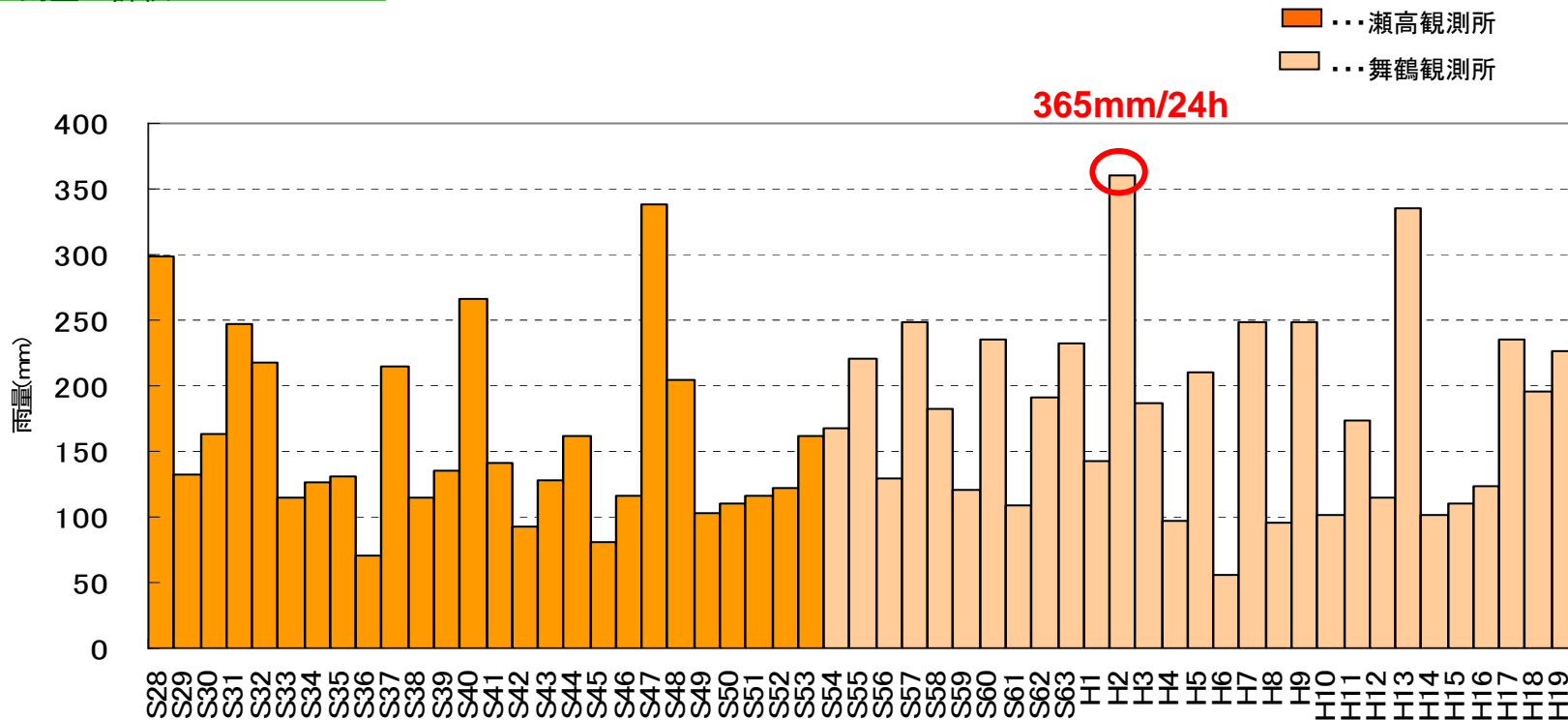
第一回矢部川学識者懇談会指摘事項（平成2年洪水雨量規模）

●平成2年7月の雨量365mmは多いのか



・飯江川近傍の雨量観測所（瀬高、舞鶴）における過去55年間（昭和28年～平成19年）の年最大24時間雨量を整理したところ、平成2年7月洪水において、24時間雨量で365mmとは、過去第1位の規模となります

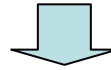
雨量の評価



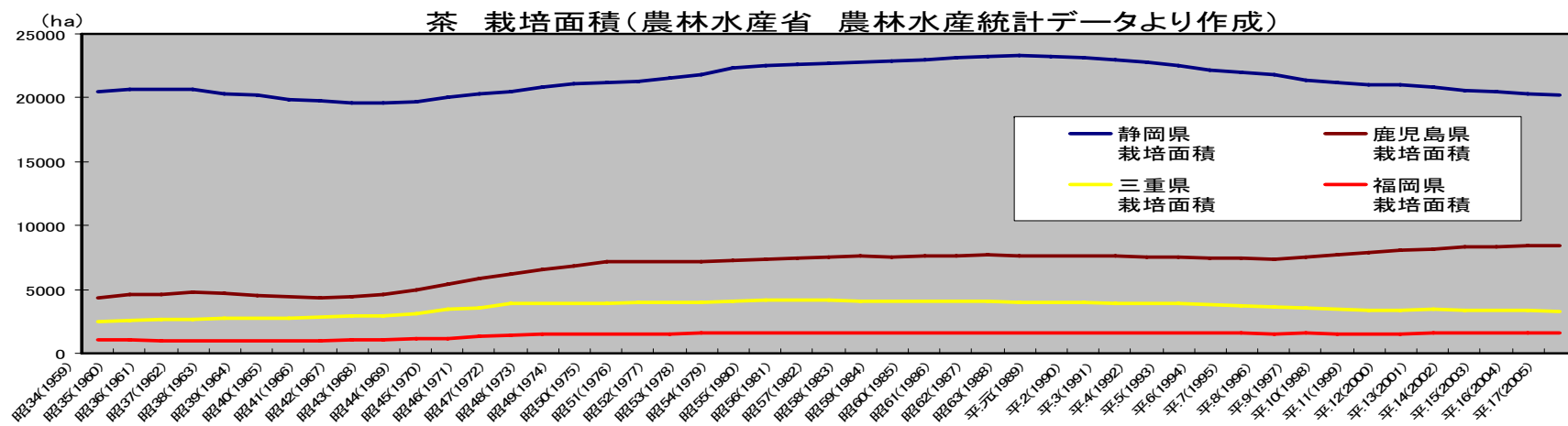
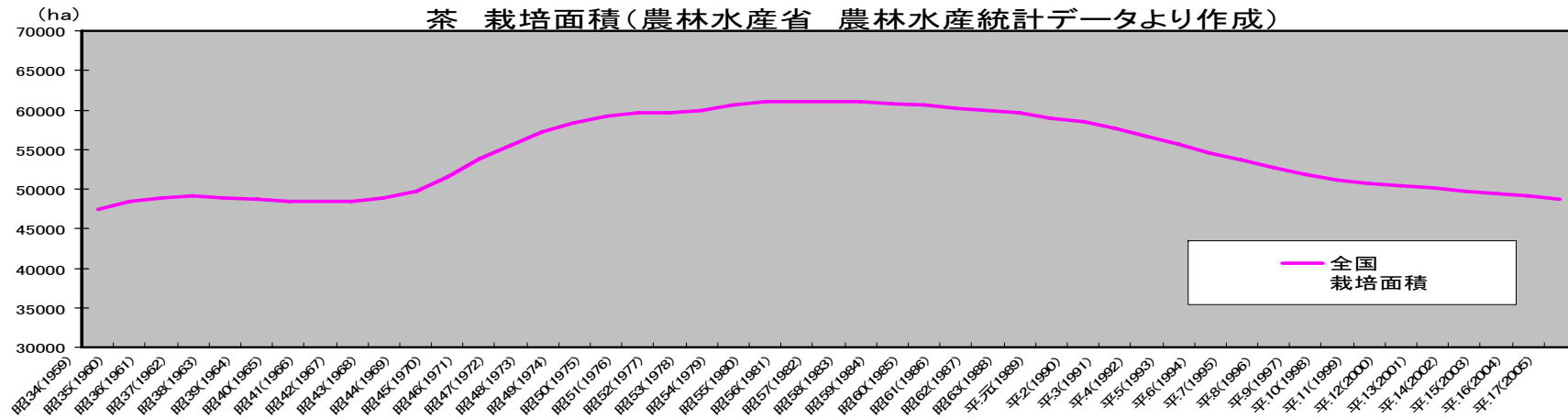
飯江川近傍観測所（瀬高、舞鶴）年最大24時間雨量

第一回矢部川学識者懇談会指摘事項（茶の栽培等）

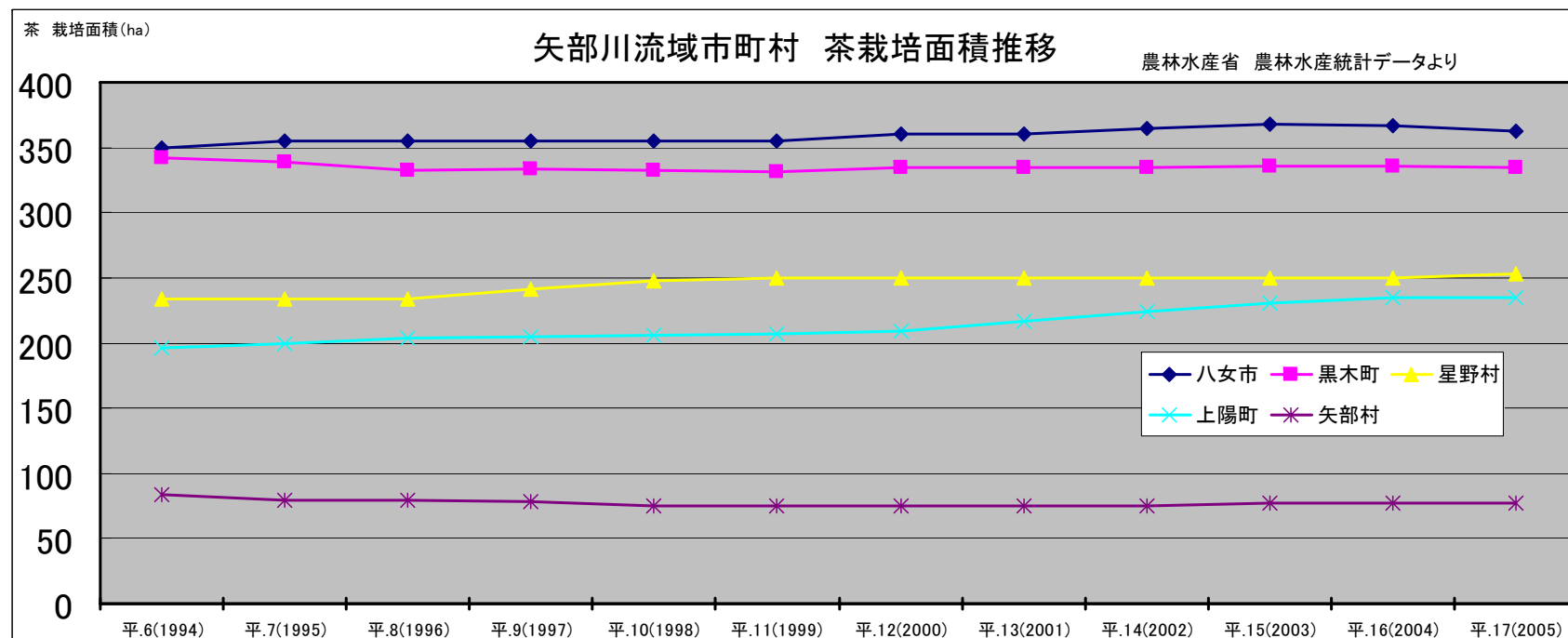
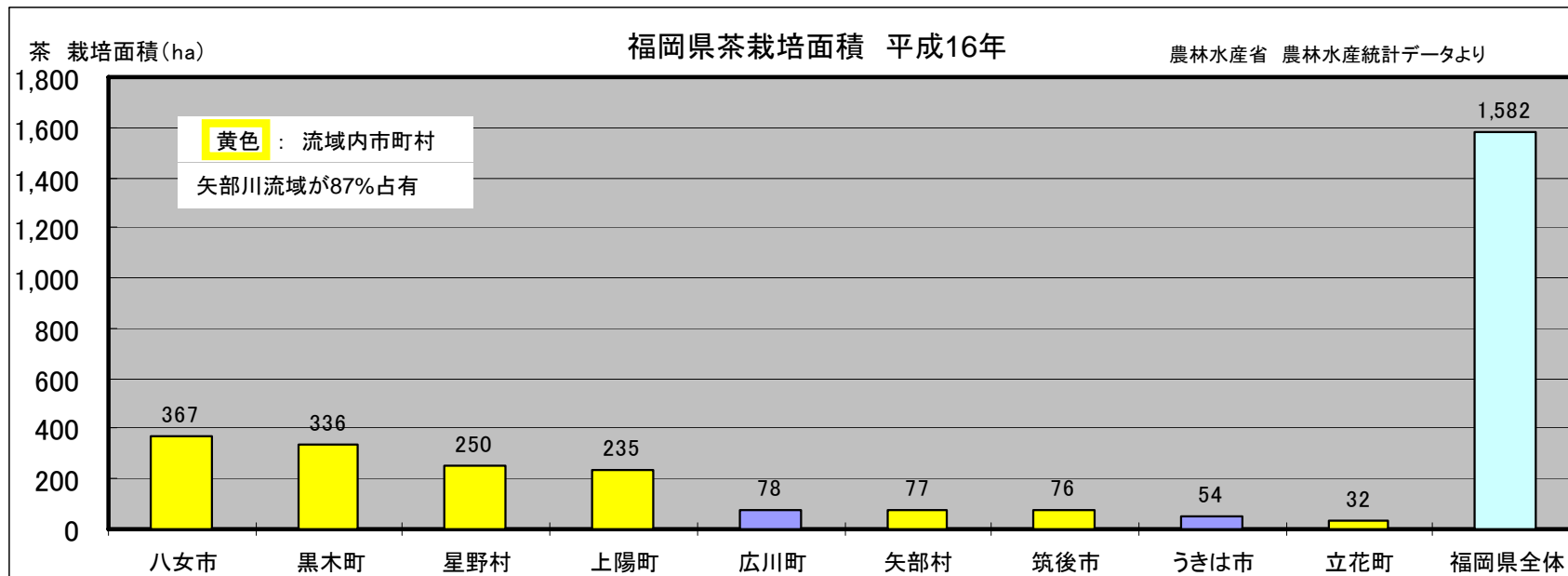
●産業別人口が下がっているが八女茶にも影響するか



・全国栽培面積については変動が大きいものの、福岡県については大きな変動は、生じておらずまた、市町村毎にみても、大きな変動は見られないため、産業別人口は下がっていますが八女茶への影響はないと考えます。



第一回矢部川学識者懇談会指摘事項（茶の栽培等）



第二回矢部川学識者懇談会指摘事項（矢部川の流況）

矢部川の流況は過去からどのようになっているか？

< 船小屋地点 >

No.	年	通年(1/1~12/31)			
		豊水 (m ³ /s)	平水 (m ³ /s)	低水 (m ³ /s)	渇水 (m ³ /s)
1	昭和53年	7.25	4.90	3.28	1.85
2	昭和54年	12.29	7.62	5.31	2.26
3	昭和55年	28.18	12.48	7.47	4.02
4	昭和56年	19.38	12.98	6.36	3.90
5	昭和57年	12.11	8.08	5.17	2.49
6	昭和58年	21.48	10.98	6.65	4.31
7	昭和59年	11.59	6.35	4.70	3.10
8	昭和60年	18.15	8.80	5.48	3.08
9	昭和61年	13.58	6.72	4.44	2.71
10	昭和62年	21.90	11.96	7.54	4.41
11	昭和63年	15.96	7.08	4.04	2.27
12	平成元年	19.68	9.35	4.37	2.43
13	平成2年	15.72	7.17	3.91	2.46
14	平成3年	24.92	7.58	4.44	2.36
15	平成4年	15.97	6.42	3.64	2.20
16	平成5年	31.05	11.32	5.63	2.93
17	平成6年	8.24	4.80	1.96	0.71
18	平成7年	11.18	4.79	2.62	1.01
19	平成8年	10.17	6.09	4.47	2.14
20	平成9年	19.67	10.00	6.32	3.82
21	平成10年	23.53	12.24	3.92	2.50
22	平成11年	12.60	4.66	2.83	1.10
23	平成12年	12.04	6.87	4.58	1.95
24	平成13年	11.81	6.57	4.40	1.79
25	平成14年	12.69	6.26	3.83	2.42
26	平成15年	19.04	8.73	5.13	2.91
27	平成16年	18.35	7.55	4.81	2.17
28	平成17年	11.10	6.17	3.24	1.75
29	平成18年	21.24	9.40	5.12	2.65
30	平成19年	8.57	4.70	3.26	1.80
31	平成20年	13.03	6.97	4.35	2.51

No.	年	通年(1/1~12/31)			
		豊水 (m ³ /s)	平水 (m ³ /s)	低水 (m ³ /s)	渇水 (m ³ /s)
近年 10ヵ年 (H11- H20)	最大	21.24	9.40	5.13	2.91
	最小	8.57	4.66	2.83	1.10
	平均	14.05	6.79	4.16	2.11
全資料 (S53- H20)	最大	31.05	12.98	7.54	4.41
	最小	7.25	4.66	1.96	0.71
	平均	16.21	7.92	4.62	2.52
1/10	3位/31年	8.57	4.79	2.83	1.10

豊水:365日のうち95日を下回らない程度の流量
 平水:365日のうち185日を下回らない程度の流量
 低水:365日のうち275日を下回らない程度の流量
 渇水:356日のうち355日を下回らない程度の流量

第二回矢部川学識者懇談会指摘事項（発電ガイドライン）

日向神ダムは発電ガイドラインの対象ではないのか？

発電ガイドライン該当発電所の概要

1. 水利権の許可更新時に河川環境保全のため流量を流下させる発電所の条件等の概要

(1) 流域変更により、発電取水口又は発電ダムの存する河川が属する水系以外の水系に分水し、又は海に直接放流するもの。

(2) 減水区間の延長が10km以上のもので、かつ、次の要件のいずれかに該当するもの。

- ① 発電取水口等における集水面積が200km²以上のもの。
- ② 減水区間の全部又は一部が自然公園法の区域に指定されているもの。
- ③ 減水区間の沿川が観光地又は集落として相当程度利用されているもの。

など。

2. 河川維持流量

(1) 河川維持流量の大きさについては、発電取水口等における集水面積100km²当たり概ね0.1~0.3m³/s程度とするものとする。

ただし、「減水区間に係わる地元市町村等との合意等により、発電水利使用者が運用により放流を行い、又は行おうとしている発電所等において河川管理者が当該流量以下でやむを得ないと認めたとき又は当該流量以上必要があると認めたときには、これによらないことができるものとする。

など。

※国土交通省河川局資料(H15.7)から抜粋